

横浜市立

ろう特別支援学校



令和8年度学校便り No. 2

ホームページ： <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/ss/ro/>

「見て・触れて・感じることの大切さ」

副校長 大杉 誠

現在、横浜では『横浜グリーンエキスポ』に向けた動きが少しずつ広がっています。学校にポスターが届いたり、堆肥づくりを通して関わりを考えたり、街中ではラッピングされた市バスを見かける機会も増えてきました。こうした身近な変化は、子どもたちにとって社会や環境への関心を自然に高めるきっかけとなっているように感じます。

こうした様子を目にする中で、ふと私の初任のころのことを思い出します。それは1989年に横浜で開催された博覧会の思い出です。市制100周年・開港130周年を記念した博覧会で、多くの人々の記憶に残るものでした。その年は私にとって教員としての初任の年であり、子どもたちとともに会場を訪れた一日は、今でも心に残る大切な思い出です。初めての引率に緊張しながらも、子どもたちと同じ目線で新しい世界に触れた経験は、教員としての出発点を改めて実感する機会となりました。

特に印象深かったのは、「ガリバー旅行記」の世界観をもとにしたガリバー館でした。大型ディスプレイや立体映像技術を活用した展示が行われ、映像シアターでは臨場感ある体験が広がっていました。子どもたちは、まるで物語の中に入り込んだかのように目を輝かせ、夢中になって見学していた姿が今も思い浮かびま



す。大きさの感覚が変わる不思議な空間に、驚きと好奇心を膨らませながら見入る子どもの姿がとても印象的で、「見て・触れて・感じる」学びの大切さを実感した瞬間でもありました。また、会場にあった大観覧車は現在もその姿を残し、当時の記憶を呼び起こしてくれます。

このように、実際に見て、触れて、感じることは、子どもたちの心に深く刻まれ、学びへの意欲や感性を育てていきます。さらに、仲間とともに同じ時間を共有し、感動を分かち合うことは、人とのつながりや協働する力を育てる大切な機会となります。

かつての横浜博での経験に思いを重ねながら、これからも子どもたちにとって心に残る教育活動を大切にしていきたいと考えています。ご家庭におかれましても、日々の小さな気づきや感動を大切にしながら、私たち教職員とともに子どもたちの成長を温かく見守っていただければ幸いです。

各部のお便りから

－ 各学部の取組を、学部便りやクラス便り等からピックアップしてご紹介します －

乳幼児教育相談

4月9日（木）、はじめの会を行いました。保護者の仕事やきょうだい児の体調不良など、お休みが多く、参加したお子さんは少なめでしたが、みんな元気いっぱいでした。久しぶりの登校とはじめの会の慣れない雰囲気でしたが、泣いてしまうお子さんは誰もおらず、いつも通りの姿を見せてくれました。教員の様子をじっと見つめたり、真似をしたり、自分の写真に気がついて笑顔で走ってくるなど、それぞれの成長が感じられました。

はじめの会が終わってから、保護者の自己紹介と「お子さんの好きなこと、はまっていること」と「チャームポイント」を教えてもらいました。今回、初めて会った0歳児のお母さんと2歳児のお母さんがお話をしていました。お子さんの生活のこと、補聴機器のことなど、先輩お母さんのお話は、0歳児のお母さんにとって、とても頼もしかったようです。学年が違うと会うことがほとんどありませんが、今回の交流が、保護者の皆さんにとっても貴重な機会になると嬉しいです。



（「5月のおたより」より引用）

幼稚部

3年生になって3週間が経とうとしています。園庭には春の虫や植物が溢れており、お子さんたちはチョウチョウやテントウムシを捕まえたり、カタバミやカラスノエンドウを集めたりしています。友達が虫を捕まえている様子を見て真似をしてみたり、友達が虫を捕まえるとえさ（草）を選んでかごに入れてあげたり、ぺちゃんこの豆じゃなくてふくらんだ豆を採るんだよと伝えたりと、友達の様子を見ながらかわりあって遊んでいる姿がみられます。他学年とのかかわりでは、採った花や豆を1年生にあげたり、鬼ごっこのときに手足を大きく振って「逃げている人」を演じて見せてあげたりする最高学年らしい姿もみられました。引き続き、友達や他学年とのかかわりを大切に活動していきます。

（幼3「月予定」より引用）

小学部

早いもので新年度スタートから1か月を迎えました。子どもたちは新しい環境にも少しずつ慣れ、教室からは毎日楽しそうな声がきこえてきます。なかよし班活動では、高学年が低学年に声をかけて集合したり、意見を求めてグループの名前を決めたりして温かいやりとりがありました。今週は、そのなかよし班で公園に校外学習に出かける予定です。安全に気を付けて行ってきます。

（小学部だより」より引用）



中学部

～ 保土ヶ谷中学校生徒会との顔合わせ【4/30（木）】～

保土ヶ谷中学校の生徒会本部役員の生徒7名が来校して、生徒会役員や学級交流委員会の委員長、副委員長と顔合わせをしました。保土ヶ谷中学校の生徒全員が、名前やイラストが書かれた大きなカードを首から提げて自己紹介が行われました。「久しぶり」という声があがったり、保土ヶ谷中学校の7名全員が手話を使って自己紹介したり、LL教室がとても和やかで気持ちの良い空気に包まれました。質問タイムでは、好きなゲームや部活などについてお互いに質問し合いました。保土ヶ谷中学校から「生徒会の活動」について質問があり、お互いの学校の生徒会の活動内容について情報交換が行われ、それぞれの学校の活動を知る機会となりました。

「手話で話したいので、手話を勉強中です。」「手話を教えてください。」という保土ヶ谷中学校の生徒の声を聞き、今年度も素晴らしい交流の機会をもつことができると確信することができました。

7月に本校で学級・学部交流、11月に保土ヶ谷中学校で部活動交流をする予定です。

(学部だより)より引用)

高等部

～ 新入生歓迎会～

4月30日(木)の3時間目から6時間目まで、新入生歓迎会を行いました。高等部では、例年、2年生が新入生歓迎会の準備を担当することになっています。1年生のみなさんを楽しく迎え入れる準備を昨年度の2月から進めてきました。新入生の自己紹介から始まった歓迎会では、4つのチームに分かれてゲームをしました。午前には会議室で「絵しりとりゲーム」と「イスとりゲーム」、午後は体育館で「王様ドッジボール」と「3ライフドッジボール」を行いました。「絵しりとり」では、最後の文字が『ん』だった場合、後ろから2番目の文字を使用するという新しいルールが加わり、さらに言葉がつながりやすくなりました。「イスとりゲーム」では、イスを奪い合うだけでなく、座ったイスにある番号を呼ばれたらミニゲームにチャレンジするというものでした。たとえば、「〇〇さんを褒めてください」「机にプロポーズをしてください」「30秒以内に紙飛行機を作って遠くまで飛ばしてください」といったユーモアあふれるチャレンジが用意されていて、みんなを楽しませようとする先輩方の気持ちが伝わってきました。午前の2つのゲームで最下位になったチームは、「歓迎会が終わるまで英語使用禁止」になりました。おしゃべりをするときでも頭をフル回転しながら、ボールを「たま」に言い換えたり、タグ(リボン)を「ひも」に言い換えたりする姿がなかなか面白かったですね。

交歓給食で楽しく交流した後は、カラーゼッケンをつけた王様を制限時間内にみんなで守り抜く「王様ドッジボール」、本のタグ(リボン)を使った「3ライフドッジボール」をやりました。王様ドッジボールでは、王様を必死に守ろうとチーム一丸となって奮闘するのですが、制限時間3分は長かったようです。ルール変更やタイムの調整をしながら、楽しいゲームとして盛り上げることができたのが大変よかったです。「3ライフドッジボール」は、ボールを3回あてられたら退場になります。ライフとなるタグ(リボン)がコート内に多く残ったチームの勝利です。ゲーム開始から外野にいる人にとって、コートに入るタイミングが重要でした。それぞれのチームが作戦会議を重ねたこともあり、3ゲーム通して引き分けでした。なかなか見所のあるゲームでした。ボールとフリスビーの両方を使ったドッジボールという点も面白かったですね。

(学部だより)より引用)